

あれから1年、人類の運命を左右する危機去らず ～ 4号機・核燃料6400本の無事を祈るのみ ～

東日本大震災から1年が経過した。今日のTVは特集番組で目白押しだ。思えば、1年前の震災後からこのニュースの発行を続けてきた。TVや新聞から流される情報があまりに事実とかけ離れていて、怒りに駆られて出し続けたといっている。チェルノブイリ原発事故を経験した私の世代から見ると、今回の原子力事故に対する日本政府の対応は、旧ソビエト政府にも劣る犯罪的なものだ。懲りもせずに原発再稼働に蠢く権力中枢のおぞましい姿を見ていると、日本政府の民主主義機構そのもののメルトダウンが引き起こした事故だったとつくづく思う。たまたま地震や津波が事故の引き金になったが、いずれは必ず遭遇していたにちがいない。

今回の福島第1原発事故は、未来時間の中にあらかじめ組み込まれた時限爆弾が、予定通り爆発しただけの不可避な必然性による事故だったのだ。私たちは必ずこの日が来ることを知っていた。しかし、時限装置を本気で外そうとはしなかった。一時の快楽のために、一時の労力を減らすために、不必要な利便性のために、必ずその日が来ることを知りながら、過剰なほどの電力にたより続けた。おこぼれのあぶく銭欲しさに原発村や原子カマフィアを跳梁跋扈させてきたのだ。

失ったものは何か？ 子どもたちの未来だ。子どもたちの未来を汚してしまった。そのことは、すなわち私たち自身の人生を汚したことに同じだ。私たちがこの世に誕生させた親、その親を誕生させた先祖、地域、自然……。私たちとつながるすべてのものを汚したのだ。溢れ出し、大地に拡散した放射能を取り除くことはもはや不可能だ。責任の取りようもない、途方にくれるしかないこの事態を前に、原発再稼働を画策する者たちが着々と準備をすすめている。

この世には悪魔というものがいるらしいが、気がつけば日本は悪魔が支配する国になっていたという笑えない状態だ。彼らは自らの一時の繁栄や利益のために、未来の時間軸の中に用意されていた子どもたちの健やかな‘いのち’を刈り取って喰らっている死の商人だ。彼らは科学技術力を支配し、権力機構を支配し、情報をコントロールすることで国民世論を操作しながら裏社会を構築している。

福島第1原発4号機の無残な姿を見よ！ 核燃料6400本がプールに沈んでいる。地震の直撃を受けて建屋は崩壊状態。おまけに地盤沈下で傾いている。次に大きな余震を受け、冷却水が漏れれば日本は絶滅する。日本だけではない北半球全域が終りを迎える。これが‘3.11’の1周年の現実だ。人類史の中でこれほどまでに過酷な危険が目の前に存在したことなどない。この時限装置はすでにコントロール不能状態にある。‘揺れて漏れたら’それで日本は終わるのである。逃げ場もない。それでも原発を続けるというのだ(野田)。この狂った死の商人たちを誰が断罪するのか？

‘放射線教育’と称して、自らの犯罪隠蔽教育にひた走る文部科学省のキャリア官僚こそ、写真に写っている現場作業員になりかわって懺悔の労働をすべきなのだ。それもせずに‘心の教育’などと、厚顔無恥、笑止千万だ。



高線量地域、柏市周辺で「末梢血リンパ球異常」

～子ども17人中8人(47.1%)に異常！医師避難を勧める～

放射能による健康被害を調査している医師達によって運営されている「放射能健康相談.com」というネットサイトがある。そこから重要な調査結果が発表された。千葉県柏市周辺の高線量地域に汚染された地域の子ども達から「末梢血リンパ球異常」が47.1%という高率で発見されたというのだ。放射能による内部被曝の影響を心配する親も多いはずだ。～まずはニュースより～

【放射線被ばく？】千葉県柏市周辺で検査、子ども17人中8人に「末梢血リンパ球異常」発見！
-医師は同地からの避難を推奨 2012年3月5日 22:00

柏市周辺の子どもから末梢血リンパ球異常

2012年3月4日、「放射能健康相談.com」にて、千葉県柏市周辺(柏市、三郷市、東葛地域周辺)の乳幼児から大人までの血液検査の結果が発表された。その結果、

乳幼児から小学生までの17人中8人に「末梢血リンパ球異常」が発見された

と公表している。

比較対象のため調査された他の地域では「末梢血リンパ球異常」の発見はゼロである。

千葉県柏市を中心とした東葛地域は、高濃度放射線スポットの多い場所として定着している。今回の検査で異常が発見された子供たちの詳細は以下の様になっている。

柏4歳 柏2歳 三郷2歳 柏2歳 草加4歳(骨髄球も+)

江戸川1歳 台東7歳 野田2歳(異型リンパは無いがリンパ球数10000以上)

Aa+Abの半分、Aaの半分以上です。Bにはこのような所見はみられません。放射線被曝との関連について検証が必要です。同地域で明らかに多くの異常が発見されていること、他の地域で異常が見られない点に関し、**検査した医師は、放射線被ばくとの関連について検証が必要であると忠告**している。～中略～

医師は、親から相談された場合は、避難を奨めているとのことである。

	0歳から幼稚園 (保育園) a	小学生 b	中学生～大人 c
高線量地域(A)	●●●●●● ●●●●●● ○○○○○○ 15名	●○ 2名	○○○○○ ○○○ 8名
それ以外(B)	○○○○○○ ○○○○○○ ○○○○○○ 15名	○○○○○ ○○○○○ ○ 11名	○○○○○ ○○○○○ 8名

※●は末梢血リンパ球異常有り、○は異常なし

末梢血リンパ球とは、一般的には白血球のことである。このニュースで紹介している「末梢血」というのは、血管の中を流れている通常の血液のことである。血液検査や献血の為には通常は腕の血管から採取する。これとは別に骨髄や脾臓・肝臓にプールされている血液やリンパ、組織液、臍帯血などがあり、これらは末梢血とは言わない。つまり、このニュースは、

‘子どもの血液検査をした結果、異常な形をした白血球が発見された’

ということを報じているのだ。高線量の地域の0歳～幼稚園の子ども達だけに高率で見つかったということになれば、放射能との関連を心配することは当然だ。ヒロシマ・ナガサキ・チェルノブイリを初め、世界の各関連施設周辺では小児白血病の多発が報告されている。

リンパ球の異常は、腫瘍性(白血病)と、反応性(ウイルス・薬物など)に異型の出現があるようだ。乳幼児や小児はリンパ組織の発達する時期で、リンパ器官が未熟で刺激に対して過敏に反応するため、健康小児で異型が10%未満に見られとのこと。このニュースでは‘異常’か‘異型’のちがいがはっきりしていないが、高線量地域の乳幼児だけが47.1%と高率で発見されたという事実は否定しようがない。高線量地域で乳幼児に明らかに異常が起きているのである。

